

他力本願のお味わい

平成28年 お盆法要 資料



浄土真宗 正信寺 釋英和



はじめに

- 日常生活に仏教用語は何気なく使われている



勢いのよい大きな声、人を叱咤する声、またその声を発すること。禅宗では中国唐代以降、種々の意味をもって使用され、師が言詮(ごんせん) (言語をもって仏法を説き明かすこと) の及ばぬ禅の極意(ごくい)を弟子に示すための方便として盛んに用いられた。その始まりは馬祖道一(ばそどういつ)・百丈懐海(ひゃくじょうえかい)の師資(師弟)間に行われたとされ、「黄檗希運(おうばくきうん)の棒」「臨済義玄(りんざいぎげん)の喝」と並び称され、言語、思慮を超えた悟境を示す手段とされた。とくに臨済宗門下では、「臨済四喝(りんざいしかつ)」とよばれる機関(指導の手段)としてまとめられ、修行の指標とされた。のちには葬儀の際の引導にも用いられるようになった。

日本大百科全書(ニッポニカ)より引用

- 中には間違った使い方や表面的な意味しか理解されていない言葉もある

無学

学がない = 学問をしていない、知識がない

実は

煩惱を断ち尽くし、もはや学ぶべきもののない境地。阿羅漢果。



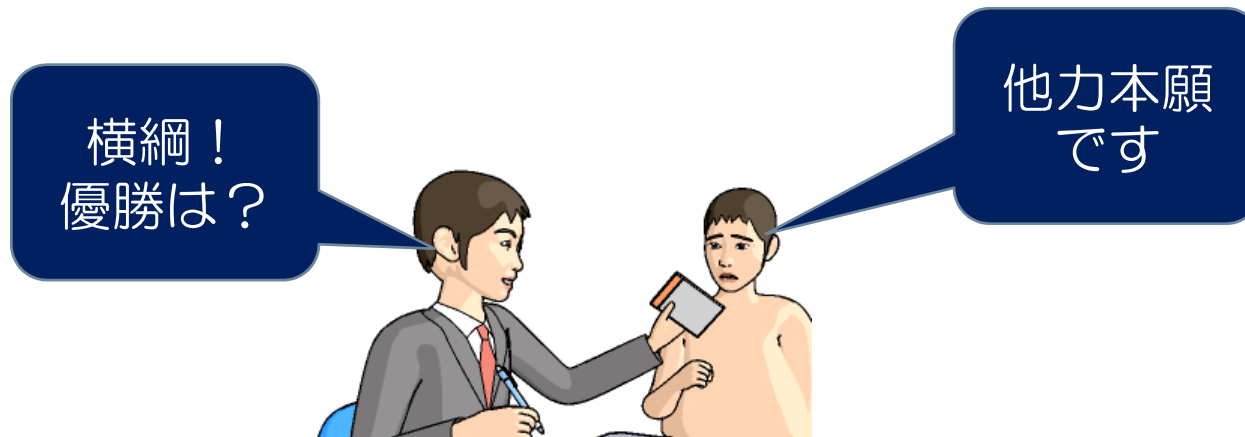
他力本願は誰が言い始めたもの？

- 正しくは、「本願他力」
- 親鸞聖人が教行信証の中で使用した。
「無明長夜の闇を破し、衆生の志願を満てたまう」
- それまでの仏教の考え方（自力）では自分の意志で修行して、この世で成仏する。
- 親鸞聖人は、比叡山で修行しても覚りを開けなかった
阿弥陀如来の第十八願を信じることによって救われることに気付いた善導大師
法然上人の念仏による浄土往生の考えに共感



他人任せという誤解

千秋楽前日に負け数が多い横綱に新聞記者がインタビュー



他の力士の負けに頼る＝他人任せと解釈された
(諸説あります)



他力は誰の力

- 他人ではなく、仏さま（阿弥陀如来）の力

自然の恵みにも仏さまの働きがある
他人の力の中にも仏さまの働きがある

- 自分の修行の力ではなく、阿弥陀如来の本願の力によって成仏すること。
- 他力を感じると自然と感謝の気持ちがわく（ありがたい気持ち）



他力本願＝頑張らない ことではない

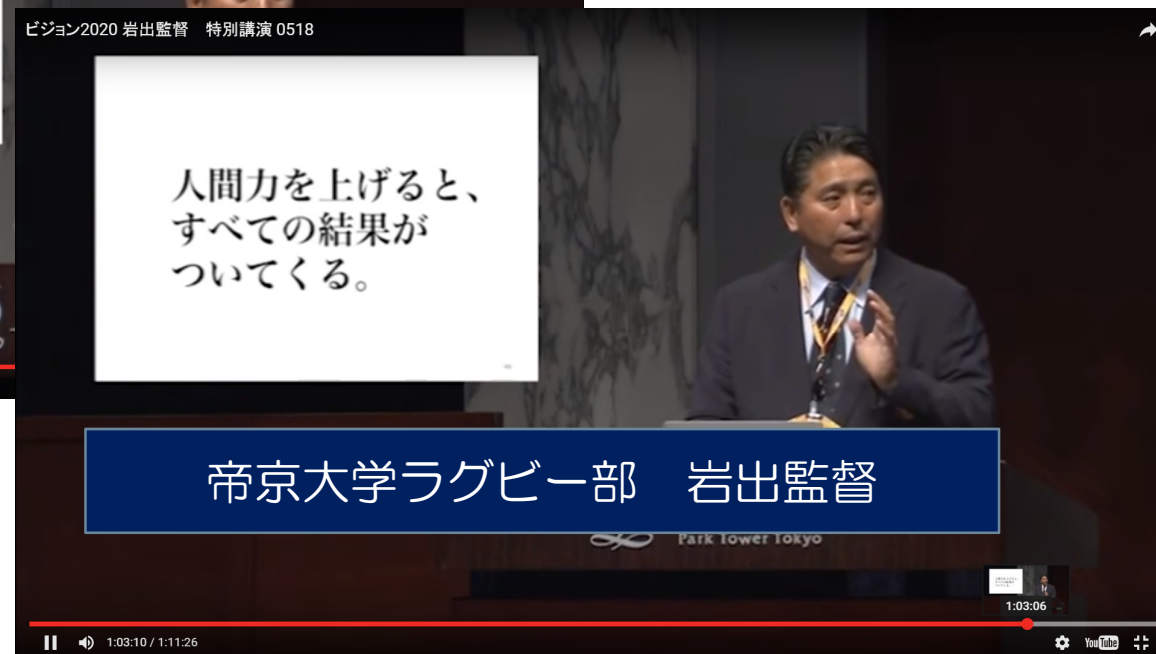
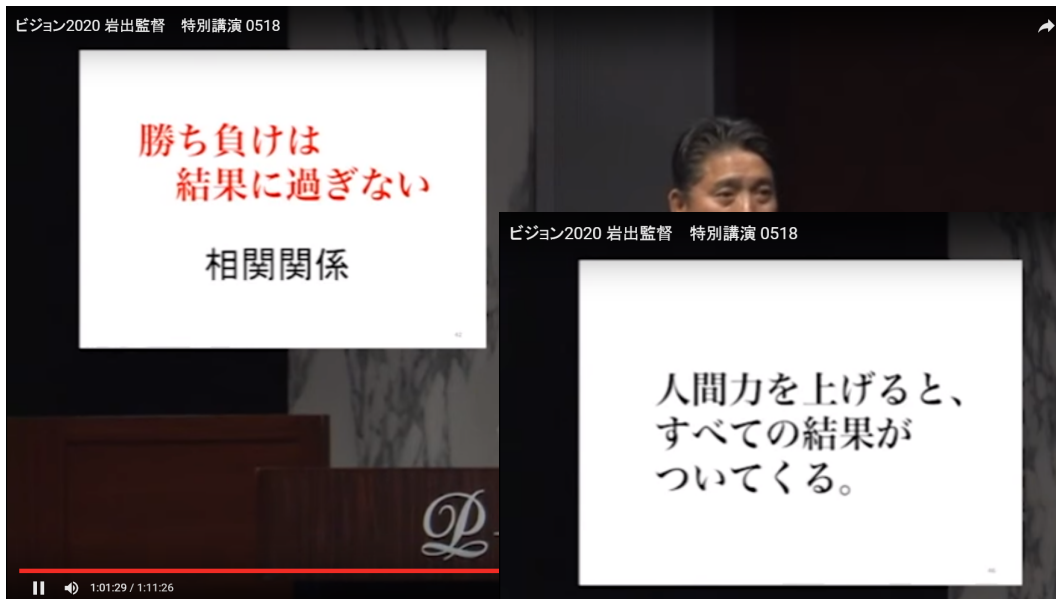
- 努力してベストを尽くし、結果は、他力にお任せする

例えば、
試験勉強をするときにベストを尽くすが、100点をとれるかどうかは、他力にお任せする

仕事は頑張るが、昇進できるかどうかは他力にお任せする



他力に頼ると結果がついてくる



Shoshinji © all right reserved



活躍した人の言葉に見る他力

■ 甲子園球児

これだけ練習したから、優勝して当たり前とは言わない

監督のおかげ、コーチのおかげ、グラウンドキーパーのおかげ、支えてくれた両親、家族のおかげ

他力を信じると、感謝の気持ち
ちがわいてくる



2014年夏甲子園優勝 大阪桐蔭 福島投手



他力による よいパフォーマンス

- プレッシャーや逆境に勝つ
- 地道な努力をする力を得る
- 勇気をもらう

他力にすぎると
力が抜ける



他力を感じる瞬間

- よいことが起きたとき
- 日常
- 悪いことが起きたとき

環境に左右されない心



ご清聴ありがとうございました

- いつでも他力を感じられる
生き方をしたいものですね

